

令和7年(2025年)2月13日(木)
平和記念資料館副館長：豆谷
電話：241-4004 内線 5804
担当：土肥・玉川・植野

平和記念資料館 研究発表会を開催します

平和記念資料館では、原爆・平和等に関わる各分野において、資料の調査・収集、学芸的考証・分析および学問的研究を行うため、1998年(平成10年)8月に、物理、国際関係論、歴史などの各方面の専門家による資料調査研究会を設立しています。

今回は、被爆直後に撮影された原爆被災記録フィルムについて、本研究会会員の久保田明子氏、広島市映像文化ライブラリー映像文化専門官等の3名が研究成果を発表します。

1 日時

2025年(令和7年)3月8日(土) 14:30～16:35(開場14:10)

2 会場

広島平和記念資料館東館地下1階 会議室1

3 発表者とテーマ(登壇順)

(1)原爆被災記録映画の撮影に向けて～広島平和記念資料館所蔵相原秀二資料より～

広島平和記念資料館 学芸係長 落葉裕信

(2)記録映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』はいかに見られてきたか

広島市映像文化ライブラリー 映像文化専門官 森宗厚子

(3)相原秀二資料の活用の可能性とアーカイブズ

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部 助教 久保田明子

4 その他

- ・入場無料。事前の申し込みは不要です。
- ・全発表終了後にまとめて質疑応答の時間を設けます。

被爆直後に撮影された 原爆被災記録フィルムについて

3月8日(土) 14:30～16:35

広島平和記念資料館 東館 地下1階 会議室1
(広島市中区中島町1-2)

申込不要・入場無料



写真：爆心地で放射線を測定する調査員とその様子を撮影する日本映画社スタッフ
林重男撮影

1945年秋、広島と長崎で撮影された日本映画社企画・撮影の原爆被災記録フィルムは、原爆投下から間もない被災地の姿を今に伝える非常に貴重な映像資料です。撮影は途中、占領軍の干渉を受け、その管理下で行われました。そのフィルムを元に1946年4月『広島・長崎における原子爆弾の影響』という映画作品が完成しましたが、間もなくフィルムはすべてアメリカに送られ、国内では20年以上この映画を見ることはできませんでした。

このたびの研究発表会では、この撮影に携わった相原秀二氏の資料や映画の内容に触れながら、撮影の背景やその後の経緯をたどり、今後の映像資料活用について考えます。

発表内容(登壇順)

- ①原爆被災記録映画の撮影に向けて～広島平和記念資料館所蔵相原秀二資料より～(15分)
(広島平和記念資料館 学芸係長 落葉裕信)
- ②記録映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』はいかに見られてきたか(40分)
(広島市映像文化ライブラリー 映像文化専門官 森宗厚子)
- ③相原秀二資料の活用の可能性とアーカイブズ(40分)
(広島大学 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部 助教 久保田明子)

広島平和記念資料館資料調査研究会とは

広島平和記念資料館の調査研究機能を高めるために、1998年(平成10年)8月に設立。国際関係論、歴史学、保存科学などの各方面の専門家により構成されており、その研究成果は資料館の常設展示や企画展示に反映されています。